

## 世界子ども 救援金

# フィリピン・台風30号被災者救援 6団体に930万円を贈呈

— 3月まで —



高潮により破壊されたレイテ島タクロバン市、  
2013年12月1日=アジア協会アジア友の会提供



レイテ島のパロ町でビスケットなど救援物資を配る。  
2013年11月27日=アジア協会アジア友の会提供

2013年11月8日にフィリピン中部を襲った台風30号は、アジアの隣国に大きな被害を出しました。本団は「フィリピン台風被災者救援金」募集社告を11月13日付の毎日新聞朝刊に掲載し、2014年3月までに933件1,104万円が寄せられました。

第1次分として、12月18日に以下の5団体に計700万円、3月には第2次分として国連UNHCR協会(東京都港区)に200万円を贈呈。このほか、公募助成制度からアジア日本相互交流センター・ICAN(名古屋市中区)へ30万円を助成しました。

5団体と贈呈額は国連UNHCR協会200万円、日本ユニセフ協会(東京都港区)100万円、アジア協会アジア友の会(大阪市西区)200万円、日本国際飢餓対策機構(大阪府八尾市)100万円、

AMDA(岡山市北区)100万円です。

贈呈先のうち、アジア協会アジア友の会は過去に同国のパナイ島で水道パイプラインを設けた実績がありました。今回はサマル島、レイテ島を含め、約2,600世帯に生活物資や水、食料、ソーラー懐中電灯などを提供。贈呈の際、村上公彦専務理事・事務局長は「現地の駐在員と連携し、継続して支援活動をしたい」と話していました。

日本国際飢餓対策機構は、セブ島、レイテ島、サマル島などで活動。発生間もなく、日本から空輸したパンの缶詰(約1万食)やバケツ、浄水フィルターなどを配りました。パンはやわらかく、水が飲めるようになって感謝されたそうです。